

発行者兼編集者
鵜 戸 神 宮
社 務 所
印刷所
西 日 本 印 刷

謹
賀
新
年

改修成った御本殿

御

挨拶

宮司 佐師朝規



平成十年の新しい年を迎えて御祝詞申し上げます。
鶴戸神宮は国定公園日南海岸の鶴戸丘陵の北端の自然大洞窟のうちに鎮座ましまして、太古この岩窟で降誕しました

創建は第十代崇神天皇の御代と伝えられ、其の後度々の改修工事が行われておる事は史記の示す處で、特に第五十代桓武天皇の御宇に僧光喜坊快久が勅命を蒙って延暦元年秋に神殿を再興し、現在の御社殿は中御門天皇の正徳元年に御造営されたもので二百八十六年を閲して居り此の間、明和七年、明治二十三年、昭和四十三年に改修されています。

今回の改修は、前回より起算して二十九年しか経っていませんが本殿全体は塩害、湿気、日射等により塗装の変色屋根銅板の腐蝕やその他各所に弛緩弊害が生じて来ましたので工事を始める事になり、平成九年二月十八日仮遷座祭を斎行、銅板屋根の葺替、漆塗、彩色工事も順調に進行しこの度平成九年十一月六日に本殿遷座祭、十一月八日には本殿遷座奉幣祭を斎行する事が出来ました。

これも偏に御神威の示す處ではありますが皆様方の御協力の賜と衷心より御礼申し上げます。

謝

辞

責任役員代表 田中 静
建設委員長



この時期、消費税が翌年四月より五%に引き上げられることが決まっております、契約の問題で様々なことが憶測で流布されていきました。

税務署等各方面の方々に打診し、翌年度着工分でも九月末日迄に契約すれば、三%の消費税で済むことが判明、見積徴収、業者の実績経歴書の提出等、入札準備を進める一方、県に対しても指定有形文化財現状変更許可申請書の提出を急ぎました。

九月中には入札も済み、(株)小西美術工芸社と(有)西田工務店に落札、契約も終え県の許可も頂くことが出来ました。工期は、本年二月十七日の祈年祭より、十一月二十三日の新嘗祭までの間に設定、二月二十日に工事安全祈願祭を、十一月六日午前二時に遷座祭、十一月八日に遷座奉幣祭を斎行することを条件に、十月末日を工期の期限とし、業者の方の努力と熱意の賜でしよう、今日この度の瞬間を感激と共に実感しているところであります。

現在の御社殿は、江戸の御代第百十四代中御門天皇の正徳元年に御造営されたものです。その時々伊東藩主の手厚い御加護を得て、当宮は隆盛を極めてきたのでありますが、明治維新後、廃仏毀釈で国家神道となり、太平洋戦争後、神道指令で宗教学法人となり現在に至っておりますが、この間明治二十三年・昭和四十三年に改修され、それより二十九年を数えます。正徳元年より二百八十六年目に、その当時の本殿を再現すべく現代の工法の最善を尽くし、色彩も鮮やかに復原することが出来ました。

顧みますに悠久二千有余年連綿として携むことのない尊いこの当宮の伝統の中に、貴重な歴史の一頁を刻むことができ、後世に悔いを残す事のない様にと、決意も新たに今後も努力を続けていきたいと思っております。今後とも皆様方の一層の御指導を賜ります様、お願い申し上げます。この度の御協力誠に有り難うございました。

祝辞

神社本庁統理 細川 護貞



本年二月に着工せられました鶴戸神宮の御本殿改修工事が完遂し、一昨日には本殿遷座祭が、そして本日は畏き刃りよりの幣帛を奉られ、全国各地から御参集の関係各位多数御参列のもと、本殿遷座奉幣祭が厳粛に斎行され、ここに祝賀の宴が催されますにあたり一言お祝ひの御挨拶を申し上げます。

御承知の通り御当社は、山幸彦、海幸彦の神話の中心として、また旧官幣大社として古くから篤い崇敬を集めてをられ、特に安産、育児、漁業の守護神として、日々御社頭において願ひを込められる多くの参拝者に、さらなる御隆盛を確信致す次第であります。

この度、地元関係諸団体各位の並々な御尽力と、鶴戸神宮に心を寄せて止まない氏子崇敬者からなる奉賛会の力強い御協力により、宮崎県の有形文化財でもある当宮の御本殿がかくも麗しく竣成相成りましたことは、誠に慶賀に堪へません。関係各位の感激も此の上なきものと拝察申し上げます。

この竣成が、例祭をはじめ数多くの祭典や諸行事の一層充実した斎行につながり、地元各位の皆様はもとより全国からの参拝者で賑はひ、地域の清新なる発展に結び付くことを心より折念いたします。

平成九年十一月八日

本殿遷座祭

漆の塗替、屋根銅板の葺替の改修工事も滞りなく終了した本殿に、大神様を仮本殿からお遷し申し上げる「本殿遷座祭」が、平成九年十一月六日午前二時より、宮司以下祭員によって厳かに斎行され責任役員、総代、県神社庁長(代理)、県神社庁南那珂支部長、工事関係業者等の参列を賜った。

遷座祭は仮本殿にて宮司祝詞奏上の後、本殿北側に隣接する仮本殿から本殿まで布単と絹垣の幕が敷き巡らされた。出御を告げる笏拍子を合図にすべての明かりが消され、遷御の儀に移った。浄壇の中、岩窟内に響くおごそかな警蹕と奏楽。絹垣から見える陰燈のおぼろげな明かり。この明かりに導かれながら、三座六柱の御祭神が本殿に入御された。

本殿では、神饌が供えられ、宮司の祝詞奏上に続き奏楽、玉串拝礼と執り行われ、二時間有余にわたった。

本殿遷座祭は終了した。尚、本殿北側の社を仮本殿としていた為、住吉・火

霊産・福智神社の三柱を本殿南側の皇子神社にお遷ししていたが、十一月十日午後七時より元の社にお遷し申し上げる遷座祭が斎行され、御本殿改修工事に關する全ての諸儀を終了した。



遷御の儀

本殿遷座 奉幣祭

陛下よりの幣帛を奉る

本殿遷座奉幣祭は、畏くも天皇陛下から御幣帛を賜り、平成九年十一月八日午前十時三十分より斎行された。

この日は好天に恵まれ、献幣使杉田秀清氏（県神社庁理事）御参向の下、神社本庁統理代理・神社本庁常務理事（県神社庁長、宮崎神宮宮司）黒岩龍彦氏、責任役員、総代をはじめ、県内外の神社、官公庁関係、全国各地の崇敬者等三五〇余名の参列を賜った。

祭典では、献饌の後、宮司が天皇陛下よりの御幣帛を奉り、神社本庁幣を奉奠。宮司、献幣使祝詞奏上に続き京都の山城舞楽会による御神楽舞が奏舞された。次に玉串拝礼が執り行われ、御本殿改修工事竣功の感謝をささげた。

本殿遷座祝賀会は儀式殿前広場特設会場にて行われた。宮司挨拶の後、感謝状が工事関係者に贈られ、続いて責任役員代表・建設委員長田中静氏より謝辞を、

神社本庁常務理事黒岩龍彦氏より神社本庁統理細川護貞氏の代理として祝辞を賜った。日南市長北川昌典氏の歓杯の後、生間流式包丁が家元の小西将清氏によって奉納された。又、清興として県民謡会日南支部によるシャンシャン馬道中唄の舞踊が行われ、参列者は興味深げに見いていた。

祝賀会は終始なごやかな雰囲気の中で進行し、太鼓谷稲成神社角河宮司の万歳三唱の音頭を戴き会は盛会裏に終了した。

最新の工法を尽くし 色彩を復原

本殿は日射、塩害、岩窟であるがゆえの通気の悪さ、湿気等で塗装の変色、屋根の銅板の腐蝕が、かなり進んでいた。

改修工事では防カビ剤を塗布、屋根銅板の葺替、内部の絵の補筆・彩色、建具の漆の塗替、葦股や木鼻など欄間彫刻の金箔押しや彩色、床板取り付け直しなどの作業が行われた。

今回の工事で特筆すべきは殿内の絵画の修復。殊に拝殿の天井板の龍図と蹴込板の紅梅図・白梅図、脇障子の桜図は、これまで全く手を入れたことがなく、何が描かれているか、ほとんど分からない状態だったのを、新しい技術を用い往事の姿に蘇らせた。

これは六、七年前に斜光ライトが開発されたことにより可能となった工法で、

ライトを当てて元絵の墨線によってできた僅かな段差を浮かび上げらせ、調査して見取図を描く。その後、墨で補筆し、ボカシや彩色をして復原していく作業である。

この作業は専門家にも注目の的であったが、県文化財保護審議委員会委員、県文化課、市社会教育課などの竣功検査でも、高い評価を受けた。



脇障子 桜図



幣殿 格天井 図



蹴込板 紅梅 図





幣殿丸柱の鳳凰・麒麟・木鼻



竹と亀



鯉の滝上り



鯉の滝下り・松と鶴



阿形の龍



墓股と十六葉の菊

改修後

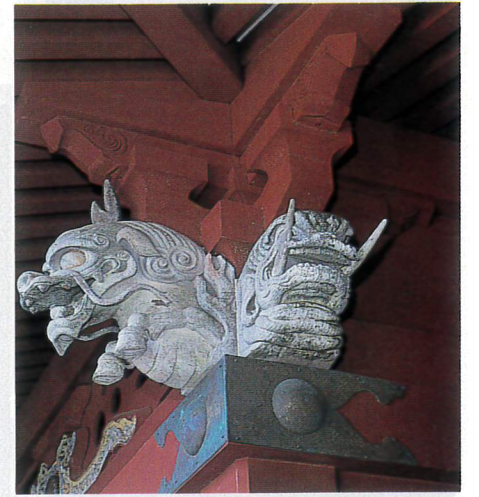


拝殿天井板 龍図

改修前



麒麟・象



牡丹



御本殿改修工事経過の概要

Table with 4 columns: Date, Description of work, Name, and Date. It details the progress of the main hall renovation from 1997 to 1999, including tasks like painting, carpentry, and furniture repair.

御本殿改修協賛者芳名

(平成九年五月一日(十一月八日)(敬称略) 皆様方の御協賛をもちまして御本殿改修工事滞りなく終了致しました。ここに厚く御礼申し上げます。

Table listing donors and their names, organized by region (鵜 and 戸). It includes names like 榎木田幸子, 岩切 武治, 伊勢戸敏信, etc.

鵜 戸

嬉野 瑛子	松 光雄	長谷田 夫夫	林田 澄夫	鈴木 昇光	竹山 幸敏	今井 フミ	内田 敬次	田爪 幸雄
小副川 スミエ	北野 信政	坂本 博	西田 静子	廣島 たくみ	山崎 初吉	坪根 則男	内田 政章	鮎川ヨシ子
平手 信子	栗原 雅秀	村上 富久枝	三浦 祐子	森山 正春	濱田 弘之	一條 一	梅山 岩男	川越 幸道
松田 敏雄	飯川 敬子	田中 知吉	三浦 道子	八尋 徹	菅原カネ子	小野 春美	江口 尚武	川越 久永
サンキ工業	井上 昭	高橋 良寿	黒木ササ子	山瀬 秀	緒方 要	三寄シツ子	松本 寛	吉田 隆男
技川 貞子	岡田 勝子	上大田 典子	武田 幸雄	太田 幸夫	川崎 光俊	八代 茂	東元 義信	渡部 孝
林 森榮	原田 順子	植田 美洋	刀根 修	武田 英夫	高橋美都子	岩永満里子	万田 国広	吉田はる江
西尾 貴	佐藤 敦子	友保 伊弘	豊福 剛史	小池 康雄	山口 弘美	依田美恵子	奥原 能	田爪イッ子
中西 弘	内野 瑞子	中原 国重	作田 親彦	吉村 文治	安藤 喜俊	小林 敏弘	佐志 求	馬渡 勝子
河添 武義	井上 善夫	貞島 朗	松下 昭彦	西田チツ子	高橋 安雄	内藤 和夫	大沢 征一	高橋 勝
岡 雪春	黒木 熊雄	栢沼 正幸	今村 初枝	桑原マサ子	佐師 朝規	中 源教	北富 和子	西村 隆俊
合田 輝正	松尾 春子	本間 健志	松下 房代	山田 一則	瀬島 芳徳	田中 源教	末水タツノ	萩原 正義
許斐富美子	川島 良男	西畑準之輔	安莊美奈子	樫田 利子	荒木 寛	谷 譲	中山 浩一	萩原 正義
縄田 正美	椋 九一	柴田 順一	池田圭次郎	宮竹 昭生	小牧眞由美	渡辺 綱彦	安斉さない	中山 迅
松岡ヨシ子	花野 瑞穂	石井 義明	松本 徳夫	荒木 力	佐藤 将治	田口 松夫	高橋 武志	本岡 一子
武田 義生	松山 義杜	石井カオル	松山 良治	関 教幸	岩井 弘光	高橋 一雄	鶴崎 久恵	上村 千草
上田 文昭	高木 兼幸	吉村 照靖	本田キヨ子	内野今朝利	崎村 タマ	小柴 文一	元永テル子	高橋大治郎
鬼木 輝子	山野 直	西平 直子	本田 丑蔵	渡邊 明	赤塚 靖二	瀬尾紗衣子	松井 康夫	三万千恵子
上田 芳子	村上 茂男	小山田和子	日高 千里	宮田 敏春	和才 始	高木 康史	馬崎 紀子	吉田 眞章
村瀬 圭子	松村 辰男	山本恵美子	八木 繁昭	片岡 久	官村 育彦	武田 敏男	東 昭夫	坂本 雄平
杉園 久枝	清水 正男	入江 勉	川崎 博志	長嶺ツヤ子	貝沼 和則	手塚美貴夫	菅原 正孝	大野 純彦
蔵本フジ子	高橋 勝	津村 洋	大海 範雄	宮崎 義美	三村つたえ	藤本 正孝	幸田 幸三	浅田 五郎
武田ハツノ	林 茂夫	山下 六郎	川口 猛	横山 正輝	松井 智幸	藤本 昌正	森田 照子	田中 忠則
原田タツ子	天野 弘文	森 隆幸	高橋 忠七	長久保秀二	山本 徳生	谷 利徳	飯田 勝次	佐藤 恭造
広田スミエ	横尾 公夫	田中 敏幸	菊知 正	栗原 清	佐田 公雄	藤本 昌正	飯田 勝次	小野 時男
伏貫スミノ	折田 一正	大徳 純雄	舟城 功	井嶋 克巳	奥 正人	猪熊 宏士	後藤 利盛	東谷 吉雄
篠崎千代子	安武 仁	永井 敏輝	和田 皓	軍司 浩	酒井 サン	酒井 郁生	井畑 昭三	古閑 一
金子ツタエ	陳 眞地	井上幸之助	上村 孝一	奥井 信孝	酒井 郁生	平内 信重	倉本 春政	吉留 光一
渡邊 勝恵	陳 政詰	河原 孝子	浅見 新一	神林富久子	佐々木寿一	芳賀 信一	村山 忠一	仲村 和行
池田 健心	橋口 雄治	佐藤ノブ子	佐々木寿一	福間 勝三	江嶋 達郎	村田 忠	宅島 浩幸	

鵜 戸

上呼 成孝	関屋 豊	宮下 明	高橋 一博	後藤 博人	松比良宗市	八田 鶴子	竹下 芳子	岩本 和義
池上 信之	徳脇 憲二	井上 行雄	三尾川常松	樋渡 益男	森山 悦子	川井 春水	近藤 房子	阿部きよ子
松崎真理子	板井 松男	下見 彰	岡太 誠	吉野 学	三窪 透	小手川克己	山崎 初吉	長友 俊子
鹿田 丈児	板井 久江	堀江マツコ	沖 守	安井 二男	荻野 泰孝	池田 茂俊	平田 慎一	永峰 定男
落合 啓子	上野 隆生	板井 俊彦	兼平 香	野田 悌男	宮原 健次	永井 伸一	廣松 国房	木村 美枝
吉村 剛	元丸 豊彦	板井 幸子	岡 宏	加川誠一郎	甲斐 悦臣	廣松 国房	本田 正子	佃 明夫
大谷 隆英	板井 幸子	目野 正和	安藤 道子	古野 良武	青池 初男	原島 広道	宇都 晃一	田中 弘治
稲留 秀明	植木 葉子	三田 祥子	兼平 香	野田 悌男	樋之口 健	桑原 義夫	宇都美智子	植田 和彦
射場 陽二	植木 葉子	山田 英俊	安藤 道子	福水 徹	津川 康博	田口 松夫	阪中 修	寺山 未広
姚 錦松	武井 角一	今井 直幸	長野 千秋	永浜 美代	小畑 博資	堤 治矣	畦原健之助	中村 幸雄
利 徳良	諏佐賢一郎	山崎 厚子	梶ヶ野弘美	森岡 利巳	植崎 昭治	堤 英子	井堀 博	石井 未人
落合 泰	吉田 眞章	山岡 良一	新西 弘子	日高 絵里	松本 一彦	堤 英子	井堀 博	友添 義文
郭 瑞成	石崎 俊治	宝徳ハマ子	竹田 三郎	伊藤 周策	内藤 敬二	本宮 繁憲	前野 幸男	成本 明弘
前田 実	仁科 重雄	小柳レイ子	馬場 弘子	江上 啓司	徳留 祐子	吉原 勇	川崎 兼一	岡田 好司
徳留 和彦	福地 利司	大貫 郁雄	平沢 直	赤城 和泰	佐々木 強	福永 速雄	有富 俊一	岡田 基司
古賀敏三郎	大徳 純雄	徳永新一郎	足立 範弘	村中 哲矢	野尻 月夫	原田 雪晴	梅田 安人	池田 兼機
山本 一郎	川口 俊一	小林 克巳	田内のお子	奥野 実	福留 俊也	林田 治雄	宮本 克美	池田 瑞璃子
吉永 勝雄	田村六太郎	現王園健人	木野瀬みつ江	若松 郁夫	小野 和子	永田病院	橋本 英征	森田 康文
緒方 曉子	松下 和隆	鬼束 達朗	浅井タツ子	八幡 幸子	岸田 豊司	池浦 守正	橋本 令子	山内 蕙子
川本 昌恵	近澤 秀城	波越 重利	北山 節子	広田小枝子	柳沢 政文	竹村 裕子	弘中 晴国	小出水寿英
比江島トシ子	近藤 エマ	品原 和雄	黒田 よし	松田 照子	薬師寺 雄	牧 みね子	山本 英二	森田 恭一
植木 親雄	森 規佐子	細田 純市	黒木 秀能	正内 春男	川端 二枝	居酒屋まり	杉田 文	丸岡 義数
青山 正夫	渡辺 泰男	植野 禮子	黒木 秀能	渡部 樹禱	山本 安男	林 紀久子	佐藤 隆雄	古場 信行
西島 市郎	曳地 誠	本田 保	長野健次郎	小島 操	南村 寒二	杉山 未夫	鈴木 ツギ	鳥飼 睦夫
先森 幸雄	稲留 盛夫	田中 静	水野 保	春田 利幸	大谷 英子	横山 良水	古川 宏幸	柴田 元義
重富 寿子	太田 関子	丸 武雄	田口 保治	新甫 賢一	北野 登	岩元 司	早間 昇	育延 正子
吉田 保	森田 素張	田中 静	黒木 秀能	堀野 寿幸	浅川忠五郎	大川内喜光	金子恵美子	針屋 崇和
市場 洋美	酒見 俊朗	原山 正暉	水野 保	新甫 和生	寺田 光明	増田 弘光	田口 寛	森川 明
小松 安則	山田 悦子	深谷 勲負	水野 保	堀野 寿幸	伊藤 信次	水成 政子	福畑 昇	飯盛トシエ
徳脇 定省	川上 隆	中村 茂	石井 浩二	吉井 学	片山英美子	畑木山羨子		
徳脇 重内	竹中 栄治	武下 裕香						

戸

鵜

(第45号)

新嘗祭 齋行

十一月二十三日、午前十一時より新嘗祭が責任役員、総代をはじめ官公庁関係、各地区区長、敬神婦人会、崇敬者等多数の参列を賜り、宮司以下祭員の奉仕によって厳肅に斎行された。今年収穫された穀物を神々に捧げ、その御恵みに感謝するこの祭典には日南、串間市をはじめ、南那珂郡内の各地区から献穀米、献酒、献菓子等が献上された。
又、今年には鶴戸小学校三・四年生による「こども神楽」が奉納された。

宮中では、新穀を天神地祇にお供えして、天皇陛下御自ら聞き召される重要な神事である。



玉前神社宮司 堀川俊氏他

(13) 平成10年1月1日

戸

鵜

(第45号)

5月29日	大我井神社宮司 他36名参拝	10月20日	責任役員会
5月30日	最高検察庁検事 小野拓美氏他4名参拝	10月23日	責任役員 細田
6月14日	天皇皇后両陛下 御渡航御安泰祈願祭	10月31日	大祓式・除夜祭
6月14日	天皇皇后両陛下 還幸啓報告祭	11月2日	新嘗祭
6月30日	大祓式	11月3日	明治祭
7月2日	日南地区産業安全祈願祭	11月4日	本殿清祓祭
7月5日	加柴久利神社宮司 伊東昭建氏 他36名参拝	11月5日	本殿御飾りの儀
7月17日	生田神社権宮司 井上篤氏他17名参拝	11月6日	本殿遷座祭
7月28日	責任役員会	11月8日	本殿遷座奉幣祭
8月27日~28日	五神宮宮司会	11月10日	末社遷座祭
9月13日	県神社庁総会出席の為宮司、役員、総代、職員 出向	11月23日	新嘗祭
9月27日	皇學館大學神道 学科教授 伴 五十嗣郎氏、井後政晏氏他14名 参拝	12月23日	天長祭
9月29日	玉前神社宮司 堀川俊氏他総代 25名参拝	12月31日	
9月29日	國學院大學 西 牟田崇生氏他2		

社務日誌抄

1月1日	歳旦祭	司 山崎宗弘氏 他1名参拝
1月3日	元始祭	
1月8日	日南地区交通安全祈願祭	3月5日 広島県神社庁府中・芦品支部50名参拝
1月9日	責任役員会	3月22日 群馬県神社庁前橋支部 瀬尾武彦氏他94名参拝
1月28日~29日	五神宮宮司会宮中参賀の為宮司 出向	3月23日 第11回シャンシヤン馬道中唄全国大会決勝
2月1日	例祭	3月24日 責任役員会
2月4日	第25回鶴戸神宮 四半の大会	3月27日 成長の家旭川支部28名参拝
2月8日	最高検察庁検事 宗像氏他参拝	4月19日 笠間稲荷神社中別府権祐宜他総代参拝
2月9日	第44回剣法発祥 鶴戸山頭彰剣道 大会	4月24日 責任役員会
2月11日	鶴戸稲荷神社例祭	4月27日 古神道仙法九州協会 川端勇氏 他39名参拝
2月16日	紀元祭	5月5日 氏子・崇敬者総代会
2月17日	末社遷座祭	5月19日 節句祭奉祝行事 いさみ太鼓奉納
2月18日	祈年祭	5月22日 龜戸天神社宮司 大鳥居武司氏他
2月20日	必勝祈願祭 本殿工事安全祈願祭	
2月21日	文化庁長官官房 会計課総務係長 富澤広氏他4名 参拝	
2月26日	白山比咩神社宮	



出雲大社宮司 千家尊祀氏他



長東神社宮司 村田和之氏他33

5月24日 総代参拝 長東神社宮司 村田和之氏他33名参拝

平成十年戌寅鶴戸神宮御神事一覽表(一月~六月)

日	時間	祭名	月
1日	0時	歳旦祭	一月
2日	7時30分	初日	一月
3日	7時30分	元始祭	一月
7日	9時40分	昭和天皇御陵遙拜式	二月
8日	10時	縁日	二月
15日	9時	成神	二月
15日	10時	古神符焼納祭	二月
31日	16時	例祭	二月
1日	10時30分	大祭	三月
2日	10時	祭	三月
3日	10時	祭	三月
4日	11時	祭	三月
11日	10時30分	中祭	三月
17日	10時30分	大祭	三月
1日	10時	祭	四月
9日	10時	一之卯	四月
21日	10時	祭	四月
1日	10時	祭	五月
30日	10時	祭	五月
1日	10時	祭	六月
4日	10時	祭	六月
5日	9時	祭	六月
6日	9時	祭	六月
8日	10時	祭	六月
11日	11時	祭	六月
30日	10時	祭	六月

賀正

宮司	三吉治規
権禰宜	伊藤謙二
巫子	河野文治
神事	伊藤博明
衛生士	佐藤信之
事務	中野信之
宮務員	伊藤博明
嘱託	河野文治

杉原 育田 関部 南屋 宮部 安部 川部 長友 長友 川部 鬼部 湯部 古部 池部 河野 平野 谷口 崎村 阿部 井部 永部 金部 高部 中野 伊藤 河野 中野 佐藤 永藤 谷友 三輪 佐師 朝規

平成10年 厄祓一覧表 (但、数え年)

女 性			男 性			
	昭和43年 31才		厄入		昭和34年 40才	
昭和38年 36才	昭和42年 32才	昭和56年 18才	前厄	昭和14年 60才	昭和33年 41才	昭和50年 24才
昭和37年 37才	昭和41年 33才	昭和55年 19才	本厄	昭和13年 61才	昭和32年 42才	昭和49年 25才
昭和36年 38才	昭和40年 34才	昭和54年 20才	後厄	昭和12年 62才	昭和31年 43才	昭和48年 26才
	昭和39年 35才		厄明		昭和30年 44才	

厄入・厄祓・厄明の御案内

厄年は人生の転機にあたり、心身共に苦勞の多い年令と言われています。
年の始めに御参拝を賜り御祈禱を受けられまして、本年も無病息災にお過し下さいますよう御案内申し上げます。

七五三詣

類にあたる風も冷たく感じられ始めた十一月に入ると、親子揃っての七五三詣りをする姿が見受けられ、子供たちの元気な声が境内に響きわたった。

七五三参りは、古くより子供の成長を祝う人生儀礼であり、今日までの子供の健やかな発育に感謝すると共に、これからも立派な人間として成長するよう、祈りを捧げる重要な儀礼である。

現在のように十一月十五日になったのは、徳川五代將軍綱吉の子徳松の祝いからともいわれている。



表彰

十月二十三日、神社本庁に於いて、責任役員細田純市氏が功勞顯著な者として表彰された。又、去る九月十三日には県神社庁総会に於いて責任役員田中静氏が神道昂揚に功績顯著な者として、氏子総代長友治義氏、江口義雄氏、水元福美氏、鬼束健三氏が総代十年以上勤続として表彰された。

これらは永年の功績が認められたものであり、当宮としても大変光栄なことである。



細田純市氏

氏子総代委嘱式

氏子総代平下修三氏死去に伴い、十一月一日仮御本殿にて委嘱式が行われ、竹山三十三氏に委嘱状が渡され

新職員紹介

巫女 池本 恵
生年月日
昭和五年三月七日
趣味 ドライブ
常の信条 素直



編集後記

御本殿改修工事も滞りなく終了し、漆塗の朱と極彩色の彫刻・葺きかえられた屋根の銅板が参拝者の目を引き付けています。

漆塗の柱、床板には自分の顔や反対側の物が映り「鏡ではないのか」と見間違える程の仕上がります。これも小西美術工藝社の職員の方々の丹誠こめた仕事の賜ではないでしょうか。

さぞかし大神様も清々しい気持ちで新年をお迎えるの事と思います。私たちもより一層、大神様の御神徳の昂揚に努められるよう、神明に奉仕していきたく気持ちを新たにしています。

(中武)